

＜ もくじ ＞	
1. 2022年 年頭の辞	1
2. 長期計画検討委員会報告会（3/13）のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	6

## 1. 2022年 年頭の辞

武漢で最初の新型コロナウイルスの集団感染が確認されてから、3度目のお正月を迎えました。新しい年の幕開けにもかかわらず、何となく心がはずまないのは、つぎつぎと変異種が現れ、感染拡大にいつこうに歯止めがかからないからでしょう。

20世紀の末頃には、感染症はほぼ克服されたと思われていました。感染症研究に対する研究費は削減され、研究者の数も激減しました。保健所は統廃合され、平成の30年間にその数は半減しました。人類は、ウイルスに打ち克ったのだという驕りがあったようです。しかし、地球上に人類が出現よりもはるかに昔から存在したウイルスに打ち克つことは不可能です。これからは、ウイルスと共存して生き延びるために、常日頃から準備態勢を整えておくことが必要です。



21世紀に入ると、新しい感染症がつぎつぎと襲い掛かりました。2002年のSARS（重症急性呼吸器症候群）、07年のジカ熱、14年のエボラ出血熱、15年のMERS（中東呼吸器症候群）などは極地的でしたが、19年の新型コロナ（COVID-19）は世界的に広がりました。100年前のスペイン風邪ウイルスは、何か月もかけて船で運ばれましたが、航空機時代の今日では、あっという間にウイルスは国境を越えてしまいます。

新型コロナは、「持てる者」と「持たざる者」の格差を顕在化させました。一部の層に富が集中する一方で、多くの人は労働の機会を失って貧困層に転落しました。人と人との接触を避けるために在宅勤務が奨励されましたが、看護・介護・清掃・輸送などの対人・対物サービスに従事する人たちには在宅勤務が不可能です。こうした人たちによって、私たちの生活が支えられているにもかかわらず、彼らの賃金や労働条件が必ずしも恵まれたものではないことが明らかにされました。

新型コロナは、これまで遅々として進まなかったデジタル化を大幅に進める契機となりました。労働や教育の場だけでなく、日常生活においてもデジタル化は急速に進みました。高齢者の多いシニア社会学会でも、大会、総会、理事会、連続講座などをオンラインで開催するようになりました。オンラインの会合は、どこにいても参加できるというメリットがある反面、雑談や名刺交換ができないというもどかしさがあります。デジタル化の波は止められませんが、対面での交流がもつ暖かさや親密感には捨てがたいものがあります。今後は、両者をバランスよく配置しながら、「誰ひとり取り残さない社会」をめざして学会の活動を続けていきたいと考えております。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年元旦 袖井孝子（一般社団法人シニア社会学会会長）

## 2. 長期計画検討委員会の報告会（3/13）のお知らせ

前号でお知らせしましたように、長期計画検討委員会では、アンケート結果の詳細を含めて2022年3月13日（日）午後から開催予定の報告会（Zoom開催予定）でご報告する予定です。その詳細が決まりチラシを作成いたしましたので添付いたします。ふるってご参加をお願いいたします。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第78回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1月27日（木）開催予定の例会は、新型コロナウイルス感染予防のため、延期いたします。  
次回（第78回）は、2月24日（木）を予定しています。

※お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願いいたします

### (2) 第28回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年2月16日（水） 15:00～17:00

2) 場 所：Zoom開催

3) 概 要：「監視資本主義」（ショシャナ・ズボフ著 野中香方子翻訳、東洋経済新報社）の解説第3回（齋田さん）、次年度に向けてアイデア整理・議論

※参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

### (3) 第138回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年2月16日（水） 18:00～20:00

2) 報告者：齊藤紀子（千葉商科大学人間社会学部 准教授）

清水さえ子（元・一般社団法人セーフティネット代表）

3) テーマ：「市民による有償ボランティア型生活支援サービス——アクション・リサーチから得られた示唆」

4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com

※ご質問がありましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

### (4) 第29回「ライフプロデュース」研究会のお知らせ

1) 日時：2022年2月22日（火） 17:30～19:30

2) テーマ：

①「One welfare」という概念の基礎知識と世界・日本の動向などのご紹介。

人間・動物・環境の状態の表裏一体性を整理する傘となる概念【ワンウェルフェア】について考えてみましょう。（担当：中村）

②【THE LONELY CENTURY】読書会（最終回）

・第8章：デジタルの鞭（担当：清水） 第10章：孤独ビジネス（担当：中村）

※参加ご希望の方、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までご連絡ください。

### (5) 第19回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2022年2月26日（土） 17:00～20:00

2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症と任意後見制度

劇団「<sup>びしょうざ</sup>B笑座」第6回。

「私にとって 認知症とは」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアライゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。  
劇団員募集しています。コロナ禍ということで昼間に行います。Zoomの参加もできます  
※お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) までお願いいたします。

## 4. 研究会からの概要報告

### (1) 第136回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年12月15日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：川村匡由(武蔵野大学名誉教授)
- 3) 場 所：Zoom 開催
- 4) テーマ：「日本の社会保障を憂う」
- 5) 参加者：16名

社会保障は国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を三大原則とする日本国憲法第25条などに定めた政府の公的責任としての公助による生存権の保障および国の社会保障的義務としての制度・政策である。

具体的には、年金、医療、介護、雇用、労災からなる社会保険および生活保護、社会福祉、老人保健、公衆衛生、戦争犠牲者援護、住宅・雇用対策で、国民であれば住み慣れた地域で生命、財産、安全・安心な生活が確保されるべき最低保障だが、中曽根政権以降、新自由主義のもとづく民活導入や市町村合併、新幹線、高速道路、空港、港湾、ダム、東京オリンピック・パラリンピックなど土建型公共事業の強行で赤字国債を乱発したツケのため、医療を除き、いずれも縮減されている。対米従属による“防衛費”という名の軍事費の増大もその一因である。

しかし、2025年はすべての団塊世代が75歳以上の後期高齢者となるほか、2065年は高齢化率が38.4%の一方、合計特殊出生率は1.4%台の半面、総人口は約4割減り、本格的な少子高齢社会および人口減少となる見込みのため、「8050」でなく、「7040」問題として受け止め、現役時代から終活ならぬ老活に努める必要がある。

そこで、政府にあっては財政再建および所得の再分配によって社会保障の拡充、さらには災害対策に努める一方、小生も国民・住民の一人として都下の賃貸マンションの一部、または戸建て住宅を地域に開放、有志によるカフェやシェアハウスを運営して人生100年をまっとうすべく、今年度より向こう5年間の研究プロジェクトに取り組みつつあるが、各位にあってはさまざまな取り組みをされることを期待したい。そして、いずれは高度資本主義体制から北欧の社会民主主義体制および集権国家から分権国家に転換したいものである。

くわしくは拙著『社会保障再生』旬報社(近刊)、拙編著『入門 社会保障』ミネルヴァ書房などを参照されたい。(川村匡由 記)

### (2) 第26回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年12月15日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：「監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い」(齋田さん)

ショシャナ・ズボフ(著)、野中 香方子(翻訳)、2021、「監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い」東洋経済新報社。

説明概要：「序論」で著作内容の全体像が分かる。今回は「序論」説明でほぼ終了。

「監視資本主義」はGoogleが発明したもの。Googleはこの行動データを広告表示に生かすことに気づき、「ターゲティング広告」を開発。

ここで問題になるのは、

- ・人間行動のすべてを民間企業が独占することができること。
- ・行動データ分析が人の行動を支配する段階に進みつつあること。

(行動経済学の「ナッジ」手法は明らかにそれを支える。)

・2016年のトランプ選出の米大統領選(ケンブリッジ・アナリティカ事件)、英国「ブレグジット」決定がその問題を顕在化させた。

著者が指摘するさらに大きな問題、

民主主義、人権、人間の自由意志に対する脅威。

この監視資本主義は人間の本质(ネイチャー)を崩壊させ、大混乱に陥れている。

(産業資本主義が自然破壊を引き起こしていることと同様の危険性を持つ)

★Digitalの素朴な夢は打ち砕かれた

「デジタル機能によって知識を民主化し、よりよい生活を実現する」という壮大な約束を監視資本主義は反故にしている。

ここまでの報告について、メンバーとの質疑応答

・ビッグデータから傾向を見つけようという監視で、中国による個人の監視とは違うのか？

実際には、個人に対して何か刺激を与えることでマスとして人を動かす。普通の人にとっては、「協調圧力」。このことは、「広告」をやっている人間にとってはわかりやすい。別の観点ではあるが、監視資本主義企業の従業員への所得分配は極めて小さい。

・結論として、「監視資本主義」に対してどう闘うのか？

民主主義が今後数十年で再び活力を取り戻せるかどうか？

∞ 私たちが激しい怒りの感情と喪失感を取り戻せるかどうか？ に未来が掛かっている

(森記)

### (3) 第64回「災害と地域社会」研究会の概要報告

1) 日時：2021年12月22日(水) 18:00~20:00

2) 開催方法：Zoomによるオンライン会議方式

3) テーマ：「東北の外国人の現状—東日本大震災の影響も踏まえて—」

4) 講師：李善姫(イ・ソンヒ)(東北大学東北アジア研究センター、プロジェクト研究部門災害人文学研究ユニット・助教、<専攻>社会人類学(ジェンダー人類学/災害人類学/移民研究)

5) 概要：李善姫さんは韓国ソウルの出身で現在、東北大学で助教として研究と教育に従事している傍ら、東北地域に移住してきた多様な外国人の抱える問題について研究し、発信しています。今回は、東日本大震災をきっかけにこれまではあまり可視化されていなかった東北への外国人移住者、なかでも女性が抱える問題に注目して、災害に対する脆弱性についての研究成果をまとめて報告されました。主なデータは李さんも参加された「外国人被災者支援センターのアンケート調査と面接調査(2012-2013年に宮城県石巻市、気仙沼市で外国人住民対象行われた)、および報告者自身の聞き取り調査、文献資料です。東北への移住者はとくに2000年をピークとするフィリピンその他からの農村花嫁(行政主導や業者斡旋)の存在が知られていますが、離婚やDVなどの問題が多く、市民などの支援団体も出始めていました。しかし、その後の問題はあまり表面化せず、2006年以降、「多文化共生事業」としての国際交流事業が始まったことで新たに外国からの移住者が増えます。その多くは働き手として外国人を導入しようとする国の政策で、技能実習を目的とする人々が多くなりますが、必ずしも定住を目的にした人々が増えているわけではありません。その結果、地元に残る外国人は2割程度とのことです。

東日本大震災を契機に生じた変化の一つに、日本人のとくに女性が抱える問題として、職を失った人や非正規雇用が増えたことがあります。外国人の場合はこれに日本語能力の問題がありより劣位の状況に置かれたといえます。そこから日本社会がもともと抱えている二つの不平等、「外国人であること」と「女性に対する不平等な扱い(ジェンダー問題)」が外国人被災者の災害復興に大きく反映しています。その問題解決に必要なのは「移民政策」であり日本語教育や支援の拡充であるといえます。地域では、ボランティアベースでそのような支援はある程度行われて

いますが、「多文化共生」を一方で掲げながら移民に対する国の政策は極めてあいまいなままです。

そこで、李さんは、東北の外国人女性の日本語能力と、地域の人や社会との関係の深さに注目して、4つ類型化を試みており、A キーパーソン型、B 地域定着型、C 孤立型、D 放浪型と名付けます。A は地域の人と外国人をつなぐ位置にいるタイプ（日本語能力も地域との関係も深い）、B は地域で定着するタイプ（日本語能力は高いが日本人との関係は深くない）、C は地域の生活に満足しているが孤立している人、D は自国に帰ったり他地域に行って生活したりする定着せずに放浪するタイプ（日本語能力は低く地域との関りも薄い）であり、人類学的視点からのこの類型は、「多文化共生」の地域社会を目指す条件を考える議論にも役立てられるのではないかと思います。

今回は、早稲田大学「地域社会と危機管理」研究所が主催した研究会に、シニア社会学会の「災害と地域社会」研究会が共催として参加する形になりました。（長田 記）

#### (4) 第77回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年12月23日（木） 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：デジタルで変わる社会について
- 4) 発表者：安田 和紘
- 5) 概 要：

安田さんは、配付資料『AIと情報処理～あなたの情報リテラシーが鍵になる～』に沿って発表された。先ず「我々の思考や行動に影響を与えるのは、メディアの伝える内容よりも、むしろメディア自体である。」とのマクルーハンの言葉をベースに、①メディア革命と言える“アナログからデジタルへ” ②影響の源泉となるメディアの動向 ③思考や行動の変化 ④AIの登場で変わるビジネスと生活 が問題意識であると述べられた。そして現在のコロナ禍で、ICTは「利用したい」から「活用せざるを得ない」ことになっており、取り残される恐怖すら感じるようになってきていること。メディア革命としては、デジタル化進展でマスコミ4媒体は縮小。信頼できる取材力・発信力が衰退していること。そして情報化時代の利便性を享受している裏に潜む危険に気づいていないことである。AI（人工知能）については、学習する機械であると述べられ、AIの進化に必要な要素として、①知的生産プロセスの支援 ②情報のリアルタイム化 ③業務プロセスの一部をAIで共有 ④IoTに欠かせないAI の4点を列記された。

発表の後、活発な意見交換が行われたが、最後に濱口座長は、今日デジタル社会下にあって、自分自身は別世界に生きていると思うこと。「情報」は活字で得ることを原則としており、「情報」について、いずれ活字化してみたいと語られた。（島村記）

#### (5) 第18回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2022年1月15日 18:30~20:30
- 2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）小会議室
- 3) 発表者：鈴木 真澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：認知症を楽しく

劇団「<sup>びしょうざ</sup>B笑座」第5回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。「朗読」も加わりました。盛り上がる一方です。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

#### (6) 第28回「ライフプロデュース」研究会開催報告（Zoom開催）

- 1) 日 時：2022年1月18日（火曜日）17:30~19:30
- 2) 参加者：計6名



【前半：2022年の抱負を漢字一文字で表してみよう！】

参加者が2022年の抱負を【進】【虹】【描】【縁】【知】【続】一文字で表現され、その漢字を選出した経緯についての思いに互いにエールを送り合った。

【後半：読書会】

21世紀の孤独危機の大きさとその克服へのアクションを示唆した課題図書「読書会、第3回目」。THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか | 書籍 | ダイヤモンド社 (diamond.co.jp)

第7章：職場で一人ぼっち（担当：寺本）

寺本さんご本人が、都内で数年間、女性専用コワーキングスペースを運営された経験があり、その運営を通して、30数名の女性会員のアントレプレナー（個人起業家）たちの協働の在り方なども紹介され、更に、現在、北陸で関わっておられる、ショッピングモールのコロナ禍の現況、地域性などについても実体験を話され、大変、説得力があった。

第9章：セックス・愛・そしてロボット（担当：岡田）

この章を要約すると、「21世紀の孤独危機に、テクノロジーは部分的な解決策しか与えてくれない、しかも、幅広い付随的リスクも伴う。だから、ロボット工学やAIや情緒的AIの進歩は、私たちがもう少し自分に厳しくなり、周囲の人をもっとケアしてもっと目を配り、もっと思いやりをもち、もっと利他的になる必要性を思い出すきっかけを与えていると考えるべきである。」というところに行き着く。フランスのPACS制度（非婚カップル保護制度）に話題が及んだことも興味深かった。

（中村 記）

## 5. 事務局からのお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

### <2月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第270号の発行日は、2月23日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、2月16日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

### <JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしているJAAS Newsは、原稿が集まった後、Microsoft Wordを用いて編集・レイアウトを行い、PDF仕様で皆様にお届けしています。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。会員の皆様のなかで、Microsoft Wordを用いた編集・レイアウトの経験がおありの方に、無償ですがお手伝いをお願いできたらと思っております。

手伝いをしてもいいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jpにてご連絡ください。よろしくお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月1回オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/